第１学年１組　特別の教科　道徳学習指導案

令和８年１１月２０日（金）　第５校時　１年１組教室　指導者　赤松　由佳

１　主題名　　正しいとおもうことを（A善悪の判断、自律、自由と責任）
（教材名：やめろよ　出典：生きる力１【日本文教出版】）

２　目　標

正しいと思ったことができたときは、自分で考えて行ったからこその喜びや自信が生まれることを理解し、正しいと思ったことを進んで行おうとする心情を育てる。

３　授業計画

【ねらいとする道徳的価値について】

児童は、よいこと悪いことの区別をしながら学校生活を送っている。一方で、正しいと分かっていても、相手への不安や自分の気持ちの揺れから、すぐに行動に移せないこともある。そのような中で、自分が正しいと思ったことをしたときは、うれしさや自信が生まれることに気付き、勇気を出して正しいと思うことを進んで行おうとする心情を育てたい。

【学習前の児童の姿】

本学級の子どもたちは、日常生活の中で、してよいことやしていけないことに気付き、自分なりに考えて行動しようとする姿が見られる。また、友達が困っている場面では、心配したり、助けたいと思ったりする気持ちが芽生えつつある。一方で、周りの様子が気になったり、言葉にして伝えることをためらったりすることもある。本時では、登場人物の思いを考えながら、正しいと思うことを行うよさについて考えたい。

〈教材のこんな魅力〉【１時間完了】
・本教材は、友達の行為に対して「それはよくない」と感じ、勇気をもって止めようとする姿を描いている。身近な友達同士の場面の中で、正しいと思ったことを行動に移すときの「どきどき」や「ためらい」が分かりやすく描かれており、１年生でも自分の経験と重ねて考えやすい。
・主人公の心情を捉えることを通して、正しい行動には迷いやためらいもあることに気付くとともに、自分で考えて行動できたときには喜びが生まれることを見つめることができる。児童の中にあるよいことを大切にしたいという思いを確かめ、正しいことを進んで行おうとする意欲を育むことができる。

〈こんな手だてで〉
・フェイスカードを選ぶことで、自分の経験に照らして「ぼく・わたしもこういう顔になったことがある」と自我関与しやすくなる。
・ぽんたがそのまま通り過ぎようとしたときと「いじわるはやめろよ」と言えたときの場面でフェイスカードを用いて表情を選ばせることで、心情の変化を具体的に捉えやすくする。
・フェイスカードの選択理由を発表させ、自分の経験を重ねて考えることで、正しいと思うことができたときとできなかったときの気持ちの違いに気付きやすくする。

【学習後の児童に期待する姿】
・正しいと思うことができると心の中がすっきりし、自分で考えて行動したからこそ、うれしさや自信が生まれることに気付き、正しいと思ったことを進んで行おうとする思いを高めている。

４　本時の指導

（１）指導の構想

指導に当たっては、まず、事前のアンケート「いじわるを見たとき、心はどんな顔になるかな」について提示し、いじわるを見たときの嫌な気持ちを学級全体で共有し、教材の世界観へつなげる。

展開では、ぽんたたちがそのまま通り過ぎようとした心の内を考える。「通り過ぎようとしたぽんたの心はどんな顔かな」と問い、ぴょんこを心配する思いがありながらも、こんきちが怖いことや、関わることへの不安があったことを捉える。ここでは、選んだフェイスカードを基に、「どうしてその顔を選んだのかな」と尋ねることで、児童が言葉にしにくい迷いやためらいを共有できるようにする。選んだ理由を大切にし、多様な感じ方を認める。

そして中心発問では、「ぽんたが『いじわるはやめろよ。』と言えたとき、ぽんたの心の中はどんな顔かな」と発問する。ここでも、児童はぽんたの気持ちに合うフェイスカードを選び、隣同士で選んだ理由を伝え合った後、全体で交流する。うれしい顔が選ばれると考えられる。「何がうれしかったのかな」と問い返し、その理由に目を向けることで、ぴょんこを大切に思う気持ちや、いじわるを止めたい思いに目を向けられるようにする。

その後、言う前と、言えた後のフェイスカードを比べて、迷いや怖さがあったからこそ、ぴょんこを大切にできたことへの安心感や、自分で正しいと思ったことを行えた喜び、すがすがしさが見えてくるように板書をする。

そして、「ぽんたみたいに、自分で考えて正しいことができるとどんなよいことがあるかな」と問い、自分で考えて行えたときには、自分自身や周囲の人の心に温かい気持ちが生まれることに気付けるようにしたい。終末では、今日の授業で新しく学んだことを振り返り、今後の生活の中で迷いを感じる場面においても、自分で決めて正しいことをしようとする態度の形成につなげたい。

（２）準　備　　（教師）挿絵、電子黒板、タブレット端末、ワークシート　（児童）タブレット端末

（3）学習過程

学習活動（時間）	予想される児童の反応			※教師の支援
1　アンケートを提示する。（5）	いじわるを見たときの心の中は、どんな顔かな			
	・「かなしい」いじわるをされた人がかわいそうだから。	・「かなしい」自分もいじわるされたらいやだから。	・「もやもや」かわいそうだけど、怖くて何もしてあげられないから。	※いじわるやいじめがいけないことであり、悲しい、心配になるなど児童の素直な感じ方を受け止め、教材の世界に自然に入れるようにする。
2　めあてを確認する。（1）	めあて　正しいことをすると、どんなよいことがあるかな			
	・ほめられる。	・ありがとうと言ってもらえる。	・いい気持ちになる。	
3　教材文を読む。（3） 4　いじわるを見たときのぽんたの気持ちを考える。（8）	こんきちがいじわるをしているのを見たとき、ぽんたの心の中は、どんな顔かな			
	・「かなしい」ぴょんこがかわいそう。	・「かなしい」自分もいじめられそうで嫌だな。	・「もやもや」止めたいけれど言えなくてもやもやする。	※全員がフェイスカードを選ぶという形で参加し、「どうしてその顔にしたのかな」と問い、選んだ理由を隣同士で伝え合う時間を設け、全体で話し合う。
5　通り過ぎようとしたときのぽんたの気持ちを考える。（8）	通り過ぎようとしたとき、ぽんたの心の中は、どんな顔かな			
	・「かなしい」自分もいじめられたらこわいから。	・「もやもや」どうせ、注意してもやめないだろう。 ・だれかがやめさせてくれるかな。	・「もやもや」ぴょんこを助けたいけれど、自分もまきこまれたらいやだから、勇気がなくて言えない。	※「どうして、ぽんたはすぐに『やめろよ。』と言えなかったのかな」と補助発問することで、「ぴょんこを助けたい気持ちはあるが、自分もいじめられたら怖いという気持ちがあり、正しいと分かっていても、怖さや不安から行動に移せない心の弱さや迷いにつながる意見を拾い、どうするかまだ決められずにもやもやしていることを板書で可視化する。
6　いじわるはやめろよと言えたときのぽんたの気持ちを考える。（15）	「やめろよ。」と言えたとき、ぽんたの心の中は、どんな顔かな			
	・「うれしい」怖かったけれど、助けられたから。	・「うれしい」言えたからうれしい。	・「すっきり」言えないときはもやもやしていたけれど、勇気を出して言えてすっきりした。 ・ぴょんこを助けたいという思いが強くなって、自分で考えて言えたから、すっきりした。	※「どんな考えから、『いじわるは、やめろよ。』と言えたのかな」と補助発問をすることで、「ぴょんこを助けたい」「怖くてもいじわるをやめさせたい」など児童の意見をつなぎ、言う前の迷いから、どのように考えが変わったのかを板書で整理する。 【キーワードとなる児童の発言】「言えてすっきりした」 【キーワードに対する切り返しの発問】「ぽんたは、どのような思いで言ったのかな」
	正しいことをすると、どんなよいことがあるかな			
	・いい気持ちになる。	・正しいことをするときには、勇気がいるが、できたときは、すっきりする。	・どきどきするけれど、自分で決めて正しいことができると、気持ちがよかった。	※「二つの顔を比べると、どんなことが分かるかな」と補助発問をすることで、自分で考えて行えたときのよさについて、板書を見ながら自分の言葉で書くように声掛けをする。
7　振り返り（5）	今日の授業を通して、新しく学んだことを振り返りましょう			
	・正しいことができるとうれしい。	・どうしようか迷うけれど、正しいことができたらすっきりする。	・自分で決めて正しいことをしてみたい。	※困っている児童には、板書を見ながら、心に残ったところを一つ選ぶように促す。

（4）評　価

・正しいと思ったことを自分で考えて行ったときの気持ちよさについて考え、正しいことを行おうとする思いを表現しようとしているか。（発言・ワークシート）

第１学年２組　特別の教科　道徳学習指導案

令和８年１１月２０日（金）　第５校時　１年２組教室　指導者　山田　みさ

１　主題名　なかよくすると（B友情、信頼）

（教材名：二わのことり　出典：生きる力１【日本文教出版】）

２　目　標

ひとりぼっちで寂しそうにしている友達に声を掛け、一緒に遊ぼうとすることで、友達だけでなく、自分もうれしくなることに気付き、友達と仲良くしようとする心情を育てる。

３　授業計画

【ねらいとする道徳的価値について】

児童にとって「友達」とは、家族以外で特に深い関わりをもち、共に学んだり遊んだりすることを通して、互いに信頼し合い、高め合える存在である。友達関係の状況によっては学校生活が充実するか否かが方向付けられることも少なくない。しかし、そんな存在の相手に対しても、自分のことが中心となって、大切にすることが難しい場面もある。しかし、心の底には「友達になりたい」「仲良くしたい」「穏やかに過ごしたい」という気持ちがある。また、学級での生活を共にしていくことで、互いに助け合って、支え合って関係が成り立っていることにも気付く。一緒に勉強したり、困っている友達のことを心配し助け合ったりする経験を積み重ねていく中で、違うところがあっても仲良くなることができ、相手だけでなく、自分もまたうれしい気持ちになることを感じる機会にしたい。

【学習前の児童の姿】

入学当初は、同じ園の子と遊ぶ姿が多く見られたが、集団生活にも慣れてきた。男女の仲もよく、休み時間には運動場に出て遊んだり、教室で話をしたりする姿が見られる。また、友達が困っていれば自分から声をかけ、助けようと行動できる子が多い。しかし、時に、自分の思いを知ってほしい、やりたいことを実現させたいという自分中心な考えにとらわれ、相手の様子や考えに思いを巡らせようとしない場面もある。この教材を通して、自分の思いだけでなく相手の思いを考え、「友達と仲良くしたり助け合ったりすると、互いにうれしい気持ちや楽しい気持ちになる」「けんかするよりも仲良くした方が楽しい」ということを、これまでの経験を振り返りながら理解を深めたい。

〈教材のこんな魅力〉【１時間完了】

・どちらの友達の家に行くか迷ったり、途中でうぐいすの家からやまがらの家に移動したり、みそささいの心の揺れや迷いがある。友達のことが気になって迷ったり、やまがらの涙を見て、来てよかったと思ったりするみそささいの気持ちを考えることができる。

・友人関係は児童の生活にも深く関わるため、同様のことはなかったか、自分の生活を振り返りながら道徳的価値について考えることができる。

〈こんな手だてで〉

・みそささいの気持ちの揺れや迷いを、心情メーターを使って一人一人視覚化し、なぜそのようにしたのか理由を問いながらペアで話し合いが活発にできるようにする。

・事前アンケートを活用し、日常での友達との関わりやそのときの気持ちを振り返り、授業前後の変化が分かりやすいようにするとともに、自分の生活に生かそうとする意欲を高める。

【学習後の児童に期待する姿】

・友達と仲良くすることで、互いに楽しい気持ちやうれしい気持ちになることに気付き、自分中心ではなく相手のことを大切に考え、進んで遊びに誘ったり仲良くしようとしたりする行動を進んで取ろうとする意欲を高めている。

４　本時の指導

（１）指導の構想

導入では、事前に取ったアンケート「友達と一緒に過ごしていて、うれしい気持ちや楽しい気持ちになるのはどんなときかな」の結果を提示する。ここでは、自分のやりたい遊びができたとき、友達が何かをしてくれたときと感じる児童が多いことを押さえ、「友達と仲良くすると、互いに楽しみ、喜ぶ気持ちが生まれる」という本時のねらいへの足掛かりとしたい。

展開では、教材のアニメーションを視聴する。やまがらの家に行くか、うぐいすの家に行くか迷いながらもうぐいすの家に行くと決めたときの気持ちや、うぐいすの家で楽しめずに抜け出したときの気持ちを考える。「近くて明るいから」「みんなが行くから」という理由でうぐいすの家に向かってしまい、一人で待っているやまがらの気持ちを考えられなかったという後悔があることを押さえたい。

中心発問では、うっすらと涙を浮かべるやまがらを見たみそささいの気持ちを考え、話し合う。自分がやまがらを大切にすることでやまがらは喜び、自分もその姿を見てうれしい気持ちになるという相互の関係があることに気付き、本時のねらいに迫りたい。そして「めあて」に戻り、仲良くしようとすると、友達だけでなく、自分もうれしくなると気付くことができるようにしたい。

終末では、導入で提示したアンケートの結果から、友達と仲良くすることが、自分の思い通りにできることだけではなく、互いに楽しみ、喜ぶ気持ちが生まれることが友達と仲良くするよさであるという考えについて確認し合いたい。

（２）準　備　　（教師）挿絵、電子黒板、タブレット端末、ワークシート

（3）学習過程

学習活動（時間）	予想される児童の反応			※教師の支援
1　アンケート結果を提示する（4）	友達と一緒に過ごしていて、うれしい気持ちや楽しい気持ちになるのはどんなときかな			
	・遊んだとき。	・助けてくれたとき。 ・好きな遊びができたとき。	・「遊ぼう」って言ってくれたとき。	※今の自分たちにとって友達は、自分を喜ばせてくれる存在であること、してもらうとうれしく楽しい気持ちになることを確認する。
2　めあてを確認する（1）	めあて　友達を大切にすると、どんなよいことがあるかな			
	・けんかしない。	・助けてくれる。	・楽しい。	
3　教材アニメーションを視聴する（4） 4　どちらのうちに行くか迷うみそさざいの気持ちを考える。（7）	どちらのうちに行くか迷っているみそさざいは、どんな気持ちかな			
	・どっちも行きたいな。 ・選べないよ。	・近くて明るいうぐいすのうちの方がいいな。 ・みんなが行く方にしようかな。	・誕生日は特別だから行った方がいいかな。 ・手紙をくれたけどみんな行かないからいいや。	※迷う気持ちの理解を促すために、挿絵とともに状況整理をする。
5　やまがらが気になって楽しめないみそさざいの気持ちについて考える。（7）	うぐいすのうちにいるとき、みそさざいが楽しくないのはどんな気持ちからかな			
	・歌とごちそうで楽しいと思う。 ・やまがらのうちに行けなかった。 ・どっちも行きたかった。	・誕生日のやまがらのお祝いに行けなかったから。 ・手紙もらったのにいいのかな。 ・やっぱりやまがらがかわいそうだな。	・友達のことを考えないで来ちゃった。 ・やまがらは一人ぼっちでさみしいはず。 ・やっぱり行こうかな。	※「明るい場所でみんなもいるし、歌を歌ったり、ごちそうを食べたりして楽しい気持ちじゃないのかな」と問い返し、自分の楽しさではなく友達のことを思う気持ちが強くなっていることを押さえる。
6　やまがらの涙を見たみそさざいの気持ちを考える。（１２）	うっすらと涙を浮かべるやまがらを見て、みそさざいはどんな気持ちかな			
	・泣くほど寂しかったのかな。 ・ごめんね。 ・誕生日に誰もお祝いしてくれないのは悲しいね。 ・みんなで来ればよかった。	・うぐいすのうちじゃなくて、始めからやまがらのうちに行けばよかった。 ・泣くほどうれしかったなんて、びっくりした。 ・来てよかったな。 ・何も考えてなくてごめんね。 ・先に誘ってくれていたから、やっぱり来た方がよかった。 ・もっと早く行けばよかった。	・やまがらが喜んでくれて、自分もうれしい。 ・ちゃんと友達のことを考えてよかった。 ・喜んでくれたなら、自分もうれしい。 ・歌やごちそうよりも、友達と仲良くする方がうれしい。 ・みんなにつられて行っちゃったけど、ちゃんと友達のことを考えてよかった。	※後悔の思いや手紙をくれたことへの誠実さに意見が集まる場合は、やまがらの涙に注目させ、さまざまな思いがある中で今回はうれし涙であることを確認し、友達が喜んでいることが自分の喜びにつながることを押さえる。 **【キーワードとなる児童の発言】** **「ごめんね」「自分もうれしい」** **「来てよかった」** **「約束したから」** **【キーワードに対する切り返しの発問】** **「涙が出るのは悲しいときだけかな」** **「うれしい気持ちになったやまがらを見ると、みそさざいはどんな気持ちになるのかな」**
7　めあてについて考える。（6）	友達を大切にすると、どんなよいことがあるかな			
	・相手が喜んでくれる。 ・けんかが少なくなる。	・仲良くすると互いにうれしくなる。 ・仲良くすると、相手が喜んでくれるし自分もうれしい。	・互いにいい気持ちになるし、もっと仲良くしたいと思う。 ・これから友達と一緒にいろんなことをしたい。	※アンケート結果と授業内での児童の意見を比較し、この１時間でめあてに対する考えの広がりや深まりを確認する。
8　振り返り（4）	今日の授業を通して、新しく学んだことを振り返りましょう			
	・仲良くするとうれしい。	・自分も相手もうれしいから、これから仲良くしたい。	・一人でいる子には自分から誘って、みんなで仲良く過ごしたい。	※仲良くすると、互いに喜び、楽しむ気持ちが生まれることに気付くようにする。

（4）評　価

・友達と仲良くすることで、互いに楽しい気持ちやうれしい気持ちになることを考え、仲良くしようとする行動を進んで取ろうとする思いを表現しようとしているか。　（発言・ワークシート）

第２学年１組　特別の教科　道徳学習指導案

令和８年１１月２０日（金）　第５校時　２年１組教室　指導者　平迫　亜紀

１　主題名　　あたたかい心（B親切、思いやり）

（教材名：くりのみ　出典：生きる力２【日本文教出版】）

２　目　標

困っている人のために親切にしようとすることは、みんなの心が温かくなるなど、とてもすてきなことであることを理解し、互いに助け合っていこうとする心情を育てる。

３　授業計画

【ねらいとする道徳的価値について】

「親切、思いやり」とは、相手のことを考えて相手の気持ちを想像し、もし自分ならどうしてほしいかと考え、それを相手に届けることである。低学年の子どもたちは、「困っている人には親切にしよう」と言われ続けているため、親切の大切さは知っている。しかし、「先生に言われたから」「褒められるから」が考えの中心であるため、「親切は大切」の考えの中身を広げていきたい。独り占めしたときの「いい気持ち」と、親切にしたときの「いい気持ち」を比較し、相手がいい気持ちで、それを見ている自分もいい気持ちになることを感じ取れるようにしていきたい。親切とは、相手のことを考えて行うものであり、親切にすると褒められるだけではなく、相手が笑顔になり、周りの人も笑顔になる、そして自分もうれしくなる。親切は、自分や相手、周りの人たちの心を温かくするすてきなことばなのだということから、親切の大切さを広げられるようにしてきたい。

【学習前の児童の姿】

本学級の子どもたちは、人懐こく、それぞれに自分の話をすることが大好きである。休み時間には自分の好きな遊びを自由にする姿があり、運動場や中庭で遊んだり、教室で本を読んだりする姿が見られる。また、水筒の水をこぼすなど友達が困っていれば自分から声をかけ、助けようとする友達を思う温かさももっている。一方で、自分の思いが通らないと悲しい気持ちを強く表したり、自分の思いを優先するあまり、相手の気持ちを十分に考えられなかったりする姿も見られる。そこで児童が友達を助けようとする思いを大切にしながら、「自分がうれしい」「自分が得をする」という考えからではなく、「友達はどうかな」「何を望んでいるかな」など、相手のことを考えて行動することに目を向けられるようにしたい。独り占めしたときの「いい気持ち」と「親切にしたとき」の「いい気持ち」を比較し、相手のことを考えた親切が、相手だけではなく自分や周りの心も温かくするということにつながることを理解できるようにしたい。

〈教材のこんな魅力〉【1時間完了】

・本教材では、冬を前に自分が見つけたどんぐりを大切にしまっておきたいと考えるきつねと、少ないどんぐりを困っているきつねに渡したいと考えるうさぎが対比して描かれている。どちらも食べ物を必要とする事情がある中で、相手のことを考えて行動することの難しさと温かさを考えることができる。
・うさぎの行動にきつねが涙を流す場面はこの教材の大きな魅力である。親切は相手の想いを想像し、相手にとってよいことを捉えられる教材である。

〈こんな手だてで〉

・双方が食べ物を必要としていることを押さえ、きつねが自分の利益を考えてどんぐりを隠す場面と、うさぎが自分にとっても大切なくりのみを差し出す場面を対比的に扱い、うさぎの親切に触れた喜びや感謝、自分の行動を振り返る思いを考え合う。
・親切にしている人やしてもらった経験を想起し、その時に感じた心の温かさを伝え合うことで、相手を思って行動することのよさを自分との関わりで捉えられるようにする。

【学習後の児童に期待する姿】

・困っている人のために親切にしようとすることは、みんなの心を温かくするすてきなことであると気付き、身近な人に温かい心で親切にしようとする気持ちを高める。

４　本時の指導

（1）指導の構想

指導に当たっては、まず、事前に取ったアンケート「親切にしてもらったことがある」の結果を掲示する。ここでは、親切にしてもらった経験を想起することで、親切にしてもらった行動と自分の心の変化を関連させて考え、それによって、教材のきつねの心が変わる瞬間や変化に焦点を向ける導入として位置づけたい。

展開では、きつねとうさぎの行動や思いを対比的に捉える。双方が冬を前に食べ物を必要としていることを丁寧に押さえる。その上で、中心発問「うさぎにくりのみをもらったとき、どんな気持ちになって涙が出たのだろう」と問い、きつねが涙した理由を多面的に考えることを通して、相手を思って親切にすることの温かさやよさについて考える。きつねの涙には、うさぎの親切に心を動かされ、喜び・温かさ・後悔が重なっていることをみんなで考えたい。きつねの反省だけに焦点が寄りすぎると行いの善悪を確かめる思考になってしまう。親切を受け取ったときの心の温かさをさまざまな言葉で表現し、捉えられるようにしたい。

その後、「めあて」に戻り、「相手のことを思って親切にすると、どんなよさがあるだろう」と問い、親切にすることは相手だけでなく、自分や周囲の人の心も温かくすることについても考えられるようにする。終末では、親切な行為によって生まれる心の温かさを思い出し、相手、自分、周囲の人の心を温かくすることについて考えられるようにしたい。

（2）準　備　　（教師）挿絵

（3）学習過程

学習活動（時間）	予想される児童の反応			※教師の支援
1　親切にしてもらった経験について捉える。（3）	親切にしてもらったことはあるかな。その時の気持ちはどうだったかな			
	・消しゴムを貸してくれたよ。助かったよ。	・鉛筆が落ちた時に拾ってもらったよ。うれしかったよ。	・一人でいる時に遊びに入れてくれたよ。寂しかったからうれしかったよ。	※「親切にしてもらったことはあるかな」というアンケートの結果を提示することで、親切にしてもらった経験とその時の気持ちを想起できるようにする。
2　めあてを確認する。（1）	めあて　相手のことを思って親切にすると、どんなよさがあるだろう			
	・褒められる。	・喜んでくれる。	・笑顔になる。	
3　教材文を読む。（4）				※親切にしてもらった時のことを考えながら聴くように声をかける。
4　くりのみを見つけたときのきつねとうさぎの思いを考える。（10）	どんぐりを隠したきつねと、しなびたどんぐりを一つ差し出したうさぎの気持ちを考えよう			
	＜きつね＞ ・やったー！	・他の人に取られないように独り占めしよう。	・見つかったら取られちゃうから、隠しておこう。	※きつねもうさぎも冬を前に食べ物がなく困っていることを押さえる。その上で、「うさぎはなぜどんぐりをあげようと思ったの。」と問い返すことで、相手のことを考えるうさぎの親切についてより深く捉えられるようにする。
	＜うさぎ＞」 ・きつねさんにもあげよう。	・ちょっとしかないからきつねさんにあげよう。	・きつねさんも困っているよね。あげたら喜んでくれるかな。	
5　くりのみをもらった時のきつねの涙について考える。（15）	うさぎにくりのみをもらったとき、きつねはどんな気持ちになって、なみだが落ちてきたのだろう			
	・うさぎさん、ごめん。ぼくは隠しちゃった。 ・自分のことしか考えてなくて恥ずかしい。	・うさぎさん、自分もおなかがすいているのに、ぼくのことを考えてくれてありがとう。 ・うさぎさんは自分よりもぼくのことを考えていてすごいな。	・自分のことを思ってくれていてうれしい。 ・自分のことを思ってくれている人がいると心がぽかぽかする。	※児童の考えが、善悪の判断ばかりに焦点が当たらないよう、親切を受け取った時の心の動きに着目できるように問い返す。 ※児童の発言から、「自分ばかり」だったきつねと「相手のことを考えていた」うさぎを分けて板書することで、気持ちの重なりやその広がりが見えるようにする。 ※ペアで互いの考えを聴き合い、自分の考えと比べることで、自分の考えに自信をもったり、新たに考えをもてたりできるようにする。
	・うれしいんだと思う。	・自分のことを考えてくれているのが分かって涙が出たと思うよ。	・自分のことを大切に思ってくれていた気持ちに感動したよ。うさぎさんもこにこしていて、うさぎさんは自分もうれしくして、相手もうれしくしていてすごいから感動したんだと思うよ。	【キーワードとなる児童の発言】 「うれしい」 【キーワードに対する切り返しの発問】 「くりのみをもらったからうれしかったのかな。それともほかのうれしさがあったのかな。」 「おなかいっぱい食べたのにどうしてうれしかったのだろう」
6　親切にしてもらったときの心の動きについて考える。（7）	相手のことを思って親切にすると、どんなよさがあるだろう			
	・困っているのを助けてくれるとうれしい気持ちになるよ。	・相手に優しくしてもらえるとうれしくて心がすっきりするよ。	・相手が自分のことを考えてくれると心がぽかぽかするよ。自分も相手もぽかぽかだよ。	※親切にしてもらった経験とその時の心を改めて想起することで、経験と関連して考えられるようにする。 ※心の動きについて問い返し、親切について深めていく。
7　振り返り（5）	今日の授業を通して、新しく学んだことを振り返りましょう			
	・困っている人がいたら親切にしたい。	・相手のことを思って親切にしたい。	・友達が困っていたら、相手のことを親切にして心をぽかぽかにしたい。	※授業の導入を振り返り、相手を思って行う親切は、相手の心を温かくすることを確認する。

（4）評　価

・困っている人のために親切にすることは、相手だけでなく自分の心も温かくするすてきなことであることなどを考え、身近な人に温かい心で親切にしようとすることについて考えを表現しようとしているか。

（発言・ワークシート）

第２学年２組　特別の教科　道徳学習指導案

令和８年１１月２０日（金）　第５校時　２年２組教室　指導者　山本　海翔

１　主題名　　すなおな心で（A正直、誠実）

（教材名：お月さまと　コロ　出典：生きる力２【日本文教出版】）

２　目　標

コロの気持ちの変化を通して、自分が本当に思っていることに素直になることによって、はればれとした気持ちになることに気付き、素直にのびのびと生活しようとする態度を育てる。

３　授業計画

【ねらいとする道徳的価値について】

人はよりよく生きたいという願いをもちながら生活しているが、いろいろな状況の中で、過ちや失敗は誰にでも起こりうる。その中で、心の中には、「ごまかせるかもしれない」「ごまかしてしまえ」という弱い心と、「正直でありたい」「ごまかしたくない」という強い心が同居している。そして、うそをついたりごまかしをしたりしていると、心の中がもやもやとし、暗い気持ちで過ごすことになる。一方で、正直であると、心がすっきりとし、毎日を明るくのびのびと過ごすことができる。「叱られるから」「ほめられるから」正直であることが大切なだけでなく、もやもやが消え、すっきりとした心で過ごせることが、正直であることのよさだと理解できるようにしたい。

【学習前の児童の姿】

本学級の児童は、休み時間には運動場へ駆け出して遊んだり、教室で話をしたりする姿が見られる。トラブルが起きた際にも、素直に自分の気持ちを話せたり、自分の非を認め、きちんと謝ったりすることができる子が多い。一方で、失敗したことを認めることへのためらいや、自分の思いを優先したい気持ちから、すぐには素直になれないこともある。本教材の学習を通して、自分の気持ちに素直になることで、心の中がすっきりとしたよい気持ちになり、気持ちのよい生活につながることに気付くことができるようにしたい。

〈教材のこんな魅力〉【1時間完了】
- 本教材は、友達とのけんかという、誰もが経験することを題材としており、子どもたちにとって自身の経験と結びつけ、共感しやすい資料である。
- 謝るか謝らないか葛藤するコロの気持ちを通して、自分の心に素直になることで、すっきりとはればれとした気持ちになることを考えることができる。

〈こんな手だてで〉
- 導入では、自身の生活経験を振り返り、自分の思いに素直になれないコロの心情に共感できるようにする。
- 葛藤するコロの気持ちや、謝ることを決めた前後のコロの気持ちの変化を視覚化できるよう板書する。
- コロの顔を拡大した挿絵を用意し、児童がコロの感情を捉えやすくする。

【学習後の児童に期待する姿】
- 素直な態度で、のびのびと生活しようとする思いを高めている。
- けんかをしてしまったときは、自分の非を認め、素直に謝ろうとする思いを高めている。

４　本時の指導

（１）指導の構想

指導に当たっては、まず、事前に取ったアンケート「『あんなこと言わなきゃよかったな』って経験はあるかな」の結果を掲示する。ここでは、自分の心に素直になれなかった経験を振り返り、誰もがこうした思いをもっていることを押さえる。その後、めあてにつなげ、本時は素直な心について考えることを伝える。

展開では、物語を通じて、コロの気持ちがどのように変化していくかに注目するように視点を与えた上で、教材のアニメーションを視聴する。その後、まずはギロが何度も遊びに誘ってくれる場面について考え、自分の気持ちに素直になれないコロの心情について確認する。そして、ギロに謝るか謝らないか葛藤するコロの気持ちについて考える。コロが謝りたい気持ちと謝りたくない気持ちで葛藤し、もやもやとした気持ちを抱えていることを押さえるとともに、謝りたい気持ちがだんだん大きくなって謝ることを決めたということをみんなで確認し、中心発問につなげる。

中心発問では、ギロに謝ることを決めたコロの思いについて考え、話し合う。謝ることを決める前と、決めた後の心情の変化が分かるように板書することで、コロの心情の変化を通して、自分の心に素直になることで、もやもやとした思いが消え、すっきりとしたよい気持ちになることを押さえる。

そして、めあてに戻り、素直な心で生活することのよさについてもう一度考える。コロの心情の変化を通して、素直な心で生活すると、すっきりとしたよい気持ちになり、素直にのびのびと生活できることを押さえたい。

終末では、今日の授業で学んだことを振り返ることで、これからも素直にのびのびと生活しようとする態度を育てたい。

（２）準　備　　（教師）挿絵、ホワイトボード

（3）学習過程

学習活動（時間）	予想される児童の反応			※教師の支援
1　アンケートの結果を共有する。（3）	「あんなこと言わなきゃよかったな」って経験はあるかな			
	・友達に嫌なことを言ってしまったよ。	・けんかをしたけど、僕は悪くないと思って謝らなかったことがあるよ。	・本当はそんなつもりじゃなかったのに、ついつい嫌なことを言ってしまったことがあるよ。	※自分の心に素直になれない経験を想起させ、誰もがこうした経験があることを押さえる。その後、めあてについて考える。
2　めあてを確認する。（1）	めあて　素直な心で生活すると、どんなよいことがあるだろう			
	・ほめてもらえると思うよ。	・友達とのけんかが減ると思うよ。	・いい気持ちになると思うよ。	
3　範読を聴く。（5） 4　ギロが誘ってくれた時のコロの気持ちについて考える。（4）	ギロが何度も誘ってくれたのに、断ってしまったのは、どんな気持ちからだろう			
	・お母さんに怒られていらいらするな。	・何度も誘ってきてめんどくさいな。	・本当は遊びたいけど、いらいらしてそんな気分にはなれないな。	※お母さんに叱られてふくれてしまい、本当は遊びたい気持ちがあるのに素直になれないコロの気持ちを共感的に理解させる。
	コロの心の中は、どんな様子だろう			
5　コロの気持ちの葛藤について考える。（7）	【あやまる】 ・ぼくが悪いから謝らないと。 ・ギロを怒らせちゃったから、謝らないと。 【あやまらない】 ・ぼくは悪くないから謝らない。	・許してくれるか不安だけど、仲直りしたいから謝ろう。 ・けんかしたままは嫌だから謝らないと。 ・謝らなきゃいけないと思っているけど、勇気が出ないよ。	・このままだともやもやするからギロに謝りたいな。 ・素直に謝った方がきっとすっきりするよ。 ・謝りたくないけど、なんだかもやもやするよ。 ・もやもやするし、悲しい気持ちだよ。	※素直になろうとする心と素直になれない心、両方存在することに気付けるように、葛藤するコロの心情を視覚化して板書する。また、あえて謝りたい素直な心を大きく板書し、素直な心が大きくなって、謝ることを決めたということが視覚的に分かりやすくする。 ※コロの悲しい表情を拡大した挿絵を提示し、児童がコロのもやもやした悲しい気持ちを捉えやすくする。 ※「草の露に映った顔を見たコロはどんなことを思っただろう」と問うことで、素直になれない自分と、そのままではいけないと気付いたコロの気持ちを捉えやすくする。
	「あしたは、ギロくんにあやまろう。」と決めたコロは、どんなことを思っているのでしょう			
6　ギロに謝ることを決めたコロの気持ちについて考える。（２０）	・勇気を出して謝ろう。 ・ギロくんに許してもらえるといいな。	・お月さまのおかげでちょっと勇気が出てきたよ。 ・明るい気持ちでいたいな。 ・なんだかいい気持ちだよ。 ・もやもやがきえてすっきりしたよ。	・悩んでいるときはもやもやしていたけど、謝ろうと決めたら心がすっきりして、いい気持ちになったよ。 ・素直に謝ろうと決めたら、何だか心が軽くなったよ。 ・自分の本当の気持ちを早く伝えたいよ。 ・素直な自分だと気持ちがいいな。	※悲しい表情と並べ、謝ることを決めた後のコロの表情を拡大した挿絵を提示する。表情の変化を比較し、素直に謝ると決めたことで、もやもやが消えてすっきりとした気持ちになったことを捉えやすくする。 【キーワードとなる児童の発言】 「心がすっきりとする」 「いい気持ちになる」 【キーワードに対する切り返しの発問】 「まだ謝っていないのに、どうしてすっきりした気持ちになったのかな」
	素直な心で生活すると、どんなよいことがあるだろう			
	・友達と仲直りができる。	・最初から謝れば、けんかをしなくて済む。	・素直な心で生活すると、すっきりいい気持ちになる。	※めあてに戻ることで、この一時間で「素直な心」に対する考えがどのように広がったり、深まったりしたか感じ取りやすくする。
7　振り返り（5）	今日の授業で学んだことを振り返りましょう			
	・友達とけんかをしたらすぐ謝りたい。	・友達とけんかをしたら、素直に謝ることが大事だと分かった。	・素直な心でいると、すっきりいい気持ちになることが分かった。	※困っている児童には、板書を見ながら、心に残ったところを一つ選ぶように促す。

（4）評　価

・自分の心に素直になるとはればれとした気持ちになることなどについて考え、ごまかさないで素直な態度で生活しようとする思いを表現しようとしているか。　（発言・ワークシート）